

オウム対策住民協議会ニュース

カルト問題を大学で教える

—オウム対策住民協議会 第26回学習会要旨—

5月11日(土)にオウム真理教対策住民協議会が主催した第26回抗議デモには雨天の中、約250名が参加した。デモの後、國學院大學助教授で「情報時代のオウム真理教」(共著、春秋社)など多数の著書、論文を公表している若き宗教学者、塚田穂高氏が、大学でのカルト問題の教える方や学生の捉え方を講演した。以下その内容を要約する。

1. オウム真理教の現況

オウム真理教への2012年度新規入会者は255人、前年は213人、その前は108人。この3年間で約600人が入会し、関西・北海道・関東・中部での増加が目立つ。信者数は、一言で15000人、うち20歳代は19%、30歳代34歳の信者は13%と若い世代の入会が多いこと、全体数が横ばいなので定着率が悪く、自然減も見られることが特徴として挙げられる。

1995年、東京地裁がオウム真理教に解散を命令し、宗教法人から任意団体となったが、その後、名称を変更するなどの経緯を辿り、現在はアレフ(1100人)、ひかりの輪(200人)とその他に分

かれています。が、若い世代にアプローチする布教方法は同じで、依然、ヨガ教室やキャンプなどのクラブ活動などを隠れ蓑にした正体隠しの詐欺的方法をとり、オウムと知らずに入会するものが多い。

なお、団体への解散命令や教祖の逮捕などがあっても、信者者がいる限り存続するなど、一般的に宗教団体を根絶するのは難しく、手口を教える等の予防が若い世代を守る最善策と言える。

2. 大学生のオウム認識状態

では、短大・高専を含めた全国約300万人の大学生はオウム真理教を知らないのだろうか？

175人の学生に行った宗教団体知名度調査では、オウ

鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

ム真理教が断トツの87.4%で、その後、創価学会や天理教、幸福の科学が続き統一教会はひかりの輪より知名度は低い。アレフは44.6%の約半分、ひかりの輪が29.1%の1/3に激減する。隔年で実施している学生の宗教意識調査でも、オウム真理教や麻原・地下鉄サリン事件などの認知度は非常に高い一方、アレフやひかりの輪は30%から40%の認知度と同じ傾向を示している。

つまり、学生はオウム真理教を知らないわけでも、関心がないわけでもないが、最近の傾向には疎く、詐欺的布教に無防備な状態にあるといえる。

3. 授業ではオウムをどう教えているか

大学では、カルト問題を、新入生オリエンテーション、宗教学・社会学・心理学の授業で取りあげる。まず、カルトの概念を教え、どういう教団やその信者のどういう行動が「社会問題」を起し「問題性」はどこにあるかを具体的にみてゆく。例えば、オウム真理教事件や問題では、その概要・歴史・問題点・持続性を教え、統一教会の事例では、金銭収奪や学生・若年層を標



講演する塚田穂高氏



雨の中ひかりの輪施設に向かうデモ行進

的にした詐欺的三口に触れ、そういう団体は、法や社会倫理から逸脱していること、他者の精神の自由を侵害することが最大の問題であると教える。

さらに、グーグルマップのストリートビューを使って千歳鳥山の駅からGSハイムの周辺や現場を紹介もしている。

4. 学生の反応

これら授業の中で、学生は、オウムの起こした事件には一定の宗教的動機もあり、オウム問題は現在も続く問題であることに、一様に驚く。

例えば、「追い出すことは他の場所に行くだけで、解決にはならない。強制的行動はとらず脱会を訴え続けるのは最善策と思う」や「社会復帰や脱会を訴えるのは社会にも信者にもよいと思っただが、信仰心の強い信者の心を動かすのは難しいと思った」など、鳥山の活動を正しく理解している。また、「デモの参加者の多くがお年寄りであった。この街に住んでいる若者はどう思っているのか」と鳥山の危惧を代弁もしている。正しい認識でカルト問題に正確な認識を持ったこれら若者が更に増えるこ

平成25年度鳥山地域オウム真理教対策住民協議会総会開催

平成25年度鳥山地域オウム真理教対策住民協議会が、4月19日鳥山総合支所2階会議室にて開催された。

来賓として世田谷区から、板垣副区長、阿部危機管理室長が出席。住民協議会は、甲斐会長はじめ会員多数が出席した。総会は甲斐会長の開会挨拶、瀧澤議長の議事進行で始まり、24年度事業・決算・監査の各報告がおこなわれた。

事業報告では、監視活動、抗議デモ・学習会など、地域住民が多数参加できる活動形態の重要性が語られ、協議会ニュースの定期発行、会財政を支える募金活動、リサイクルバザーなど、多彩な活動が地域住民の支持を得てきたと報告された。

事業・決算・監査の報告が全員の拍手で承認され、平成25年度事業計画・予算案の提案へと議事が進められた。

事業計画では、活動が13年目に入り、より一層住民と共感できる住民協議会ニュース発行の必要性和、地域の皆さんのご支援により、募金活動が継続出来ているなどの意見交換後、事業計画・予算が全員の拍手で承認され総会は終了した。



第7回オウム対策住民協議会リサイクルバザー

4月13日(土)初夏を思わせる日差しの中、リサイクルバザーが開催されました。烏山区民センター前広場には、地域の皆様から寄付していただいた、沢山の品物が所せましと並べられました。

陶器ガラス・衣類・アクセサリ・靴、バッグ・子供用品・雑貨と分けられた各コーナーには、開始前から行列が出来て、担当者は嬉しい悲鳴をあげていました。お目当ての品物の前に座り込んで開始を待つ光景は恒例となり、それぞれのコーナーを取り囲む輪ができて、不思議な光景です。特に10円均一雑貨では、小さな日本人形や懐かしい昔玩具と置物などを袋いっぱい詰め込んだ外国人には、納得したり、活用される喜びも感じました。

物品受付をした4日間、必ず品物を持ってきて下さる人、遠くから手押し車で届けてくださる人、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。「今回は品物を持ってこられなかったのですが、募金をしたい」とわざわざ顔を出してくだ

さる人もいました。

売上585,222円 募金30,107円 合計615,329円、このお金は私たちの活動を支える皆様の真心と思い大切に使用させていただきます。ご協力ありがとうございました。



盛況だったリサイクルバザー

第26回抗議デモ・学習会アンケート結果

【実施日】 2013年5月11日(土)

【回収枚数】 41枚

【開催情報の入手方法】 協議会ニュース12、チラシ7、
町会自治会回覧19、その他5

【学習会への感想】

- ・個人的には、いままでの学習会のなかで一番よかったと思います。
- ・33歳のお若い宗教学者の情熱を感じました。どうしてこういうことが起きるのか、宗教は人を救うことなのに、殺人に走るとは！そんなところを改めて知りたくなりました。
- ・若者を教育する大学はどう思っているのか疑問を持っていたが、このような若い先生がいることが嬉しい。
- ・大学生の子供がいます。大学でも注意を促しているのですが、関心を持ってほしくないから、近づかないように気を付けてと言っています。手口を知って、名乗らないということをつたえないといけなかったと思います。
- ・質問はできませんでしたが、NHKが放送した2日間のスペシャル番組に若者はどういう反応をしたか教えてほしかったです。協議会ニュースで伝えてください。
- ・講義形式なので少々退屈を感じる。パネルディスカッ

ション形式のほうが良いのでは？

- ・思っていたより奥が深くなく、根本的になぜオウムはいけないのか、反対行動をするのか、活動をしないとどういうリスクが発生するのかという部分がたりない。

【協議会活動についての感想】

- ・長く活動を続けていただきありがとうございます。
- ・活動はスバラシイ。足立区のアレフ対策の方々と協働できるとより良いのかと。
- ・活動歴13年、まだまだ先は長いですが、若い先生が大学で若者に伝えていることを力強く思う。
- ・若い人たちをどう巻きこんでいくか、どういうアピールをしていけばよいか考えていかなければならない。
- ・デモに参加しました。シュプレヒコールの合間に、オウムが烏山に住んでいることをもっとアピールすべきです。通行中の方々にも分かるように、デモの目的を沿道にアピールしたほうが良いと思いました。
- ・若手が少ないことを感じた。地域の若手がもっと参加したくなる協議会にするためにはどうすればよいのかという議論・実施が必要。
- ・若者に参加してもらえらる集会を行うと良いと思った。デモも日曜日だと親子連れで参加できるのでは？

住民協議会活動報告

4月12日(金) 第7回リサイクルバザー準備
4月13日(土) 第7回リサイクルバザー
4月19日(金) オウム対策住民協議会総会・実行委員会
5月2日(木) 第26回抗議デモ・学習会チラシ配り
5月7日(火) 協議会ニュース125号初校正

5月8日(水) 事務局会議
5月11日(土) 第26回抗議デモ・学習会
5月14日(火) 協議会ニュース125号再校正
5月15日(水) 実行委員会
5月21日(火) 協議会ニュース125号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。